

レビュー研究用フォーム		データ記入欄		
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫		
	タイプ			
タイトル情報	論文の英語タイトル	Surgical management of cerebral metastases from melanoma: outcome in 147 patients treated at a single institution over two decades.		
	論文の日本語タイトル			
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)		
	ガイドライン上での目次名称	MMCQ17-10		
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1 つ以上のランダム化比較試験による III. 非ランダム化比較試験による IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究による） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズによる） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 (IV)		
	Pubmed ID			
	医中誌 ID			
	雑誌名	J Neurosurg.		
	雑誌 ID			
	巻	96		
	号	3		
	ページ	552-8		
	ISSN ナンバー	0022-3085 (Print)		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)		
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)		
	発行年月	2002		
	著者情報		氏名	所属機関
		筆頭著者	Zacest AC,	Department of Neurosurgery, Royal Prince Alfred Hospital, Camperdown, New South Wales, Australia
その他著者 1		Besser M,		
その他著者 2		Stevens G,		
その他著者 3		Thompson JF,		
その他著者 4		McCarthy WH,		
その他著者 5		Culjak G.		
その他著者 6				
その他著者 7				
その他著者 8				
その他著者 9				
その他著者 10				

レビュー研究の6項目	目的	脳転移切除後の予後を明らかにする
	データソース	
	研究の選択	
	データ抽出	
	主な結果	脳転移切除患者 147 例 術後の症状改善 78% 生存期間中央値 8 月、3 年生存率 9%、5 年生存率 5% 予後因子 多変量解析：統計学的には脳転移巣の数のみ 単変量解析：転移巣の数、完全切除の有無、再発病巣の切除が関連していた。他の臓器転移の有無は統計学的には予後に関連しなかった。
	結論	ほとんどの脳転移については術後放射線療法を組み合わせた手術療法は、症状緩和と多少の生存期間延長に有効である。長期生存は、単発で他の臓器転移がない患者にみられる。再発巣の切除にあたっては適切な症例選択を行う。
レビューワーコメント	備考	
	レビューワー氏名	宇原 久
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（ IV ） 脳転移巣の数が予後因子として重要であることを示した価値ある論文である。